

令和7年度小学生学び応援塾について（参考）

1 事業概要

本事業は、射水市内の小学校3年生児童を対象に、放課後の空き教室等を利用して、算数科の補充学習として実施している。対象の5校は、児童数が多い小学校を中心に、教育センターと教育委員会で協議して決定している。各校の定員を概ね20名として、本人と保護者の同意を得て希望する児童を集め、4班編制で実施している。毎回5人の支援員が指導にあたり、教育委員会で勤務する専任支援員が作成した百マス計算（四則計算）や復習問題等、基礎基本の学習内容を中心に、各校年間26回程度実施している。

支援員は、解き方が分からず困っていたり答えが間違っていたりした場合、ヒントを与えて解き方を身に付けさせたり、間違えた原因に気付かせたりしながら、基礎基本をしっかりと身に付けさせている。毎回最後に学習の振り返りを書かせている。何が分かったのかどんな力が身に付いたのか自分自身を振り返らせることで、やる気を育てている。

また、支援員は「百マス計算が速くなったね」「計算力が付いてきたよ」「確実に計算できるようになり、文章問題も落ち着いて計算できるようになってきたよ」などという励ましの言葉をかけておられる。毎回、楽しみに来ている児童の姿が見られた。

児童からは「百マス計算を続けてきたことで計算が速くなり、算数の力が付いてきた」「学び応援塾で復習したことで、学校のテストがすらすらと解けるようになって嬉しかった」「学び塾のプリントを間違えても先生が優しく教えてくださるので、算数の授業での点数も上がり頭がよくなってきたように思う」などの言葉が振り返りカードに書かれていて、計算に対して自信が付き、学習意欲が高まってきている様子が見られた。

保護者からは「子供の振り返りを読むと、学び塾での様子がよく分かります」「先生のコメントが自信に繋がり、算数が好きになってきています」「百マス計算の上達に驚きます。家でもお金の計算をしていると『ちょっと待って』と自分でやりたがるようになりました」「苦手意識があった算数ですが、支援員の先生のおかげで算数が好きになってきました」など、喜びや感謝の言葉が多かった。家族の励ましや応援が、何よりも子供の自信になっている。

2 実施状況

- ・今年度は、大島小学校、大門小学校、新湊放生津小学校、小杉小学校、歌の森小学校の5校で実施した。小学校の3年生を対象に、各小学校20名程度集まって実施した。《下記の写真 歌の森小学校の学習の様子、大島小学校の児童が書いた手紙》



3 令和8年度に向けて

- ・支援員の確保がだんだん難しくなっている。該当校で勤務している非常勤講師や学習サポーター、スクールサポートスタッフ等の協力により、支援員の確保を図る。
- ・学級担任や管理職等に児童の様子を見に来てもらい、声かけをしたり励ましたりしてもらったことが、児童の自信や学習意欲に繋がっている。来年度もお願いしていく。